

—佐渡の未来—

佐藤久雄の県政報告会

主催：佐藤久雄事務所

所在地：佐渡市上横山117-1

電話番号：080-1064-8405

第一部：私の県政報告

- (1) 佐渡空港に大型ヘリ着陸可能に
 - ① 佐渡空港は昭和34年完成。55年間大型ヘリが離発着できず。
 - ② 「新潟県地域防災計画」：佐渡空港→緊急時の輸送拠点。
 - ↓ 矛盾→私は、県に県空港条例改正を要請、県議会可決。
 - ③ 「新潟県空港条例第4条」：航空機の最大離着陸の換算単車輪荷重6.5トン以上となる場合は、空港を使用してはならない。
 - 但し、知事の許可を受けた場合はこの限りではない(改正点)

第一部：私の県政報告－2

- (2) 佐渡－羽田航空路開設に知事積極答弁

- Q佐藤：「佐渡市の合併特例債で機材（飛行機）を購入し、航空会社に
- ファイナンス・リース、または、オペレーティング・リースを行い、リース
- 料を稼得すべきと考えるが、知事ご所見を伺う」

A知事：「今後、佐渡市が、ふさわしい機材（航空機）の選定を含め、航空路開設に主体的に取り組めば、県も改めて支援を検討する」

第一部：私の県政報告－3

- (3)クルーズ大航海時代の到来と県のクルーズ船(豪華客船)誘致
- ①Q佐藤:「クルーズ船用(含むその他)岸壁の水深9メートル化は佐渡の関係者の悲願。その整備につき、知事ご所見を伺う」
- A知事:「佐渡市の意向やクルーズ船の寄港動向を見て検討」
- ②Q佐藤:「クルーズ観光は佐渡観光の起死回生策の一つ、県のご協力を伺う」
- A知事:「佐渡は、金山はじめ観光スポットが凝縮された地域、
 - (a)佐渡の魅力の情報発信、
 - (b)船社や代理店への誘致活動、
 - (c)受入れ体制の整備等 佐渡市への協力を進めます。

第一部：私の県政報告－4

- (4) 国政に於ける佐渡関連事項(県政関連)
- ①佐藤正久参議院議員：2月5日参議院予算委員会質問/大臣答弁要旨
- Q1：佐藤正久議員「伊豆大島は、人口9,000人弱、滑走路1,800メートル。他方、
• 佐渡は、人口59千人、滑走路890メートル。佐渡空港は、防災上、国民
• 保護法上、死活問題。空港等の整備を伺う」
- A：太田昭宏国交大臣「航空会社のニーズに応じ、滑走路延長を行うのが一般的。
• しかし、地震、津波も重要な視点、被災地支援に最善策を講ずる」
-
- Q2：佐藤正久議員「与那国島は、人口1,600人、滑走路2,000メートル。
• 佐渡は、人口59千人、滑走路は890メートル。航空会社のニーズが無けれ
• ば、何時までたっても整備できない。財務大臣、副総理に伺う」
- A2：麻生財務大臣「隣に、拡張主義があらわれた(尖閣)、きちんと対応すべき」

第一部：私の県政報告－5

- (4) 国政に於ける佐渡関連事項(県政関連)－その2
- ② 鷺尾英一郎衆議院議員：2月26日衆議院予算委員会質問/大臣答弁要旨
- Q:「離島と本土との生活の格差をなくする方向で・・・離島航路の助成に格段の配慮を願いたい」
- A:今年中に、佐渡に伺い、航路のこととかを全体的に調べて、力を尽くしたい
(太田昭宏国土交通大臣)
- ③ 佐藤ひさおは、4月24日、2名の国会議員に会い、佐渡への協力を要請した。
- (a) 佐藤正久氏：佐渡空港の質問に謝意を伝えた。又、「特定国境離島地域の保全並びに振興に関する特別措置法」の早期成立を要請した(参議院議員会館)
- (b) 二階俊博氏(志帥会会長)：空港問題で協力を要請(ホテル・ニューオータニ)

第二部：政治に対する私の考え

- (1) 理想と現実の大きな隔たり
- 理想：夢と希望を持てる社会 ← 額に汗して働く人が報われる社会(泉田知事)
- ↓
- 現実：少子高齢化、過疎化、ワーキング・プアー、非正規雇用等

- (2) 政治家とは
- ①情熱、洞察力、責任感の持ち主 ← マックス ウェーバー(ドイツの経済学者)
- ②理想と現実の大きな隔たりを解決できる人 ← 私の考え

第二部：政治に対する私の考えー2

- (3)地方の過疎化→人口の首都圏一極集中
- ①人口の首都圏一極集中：現在：3割→10年後：4割→20年後5割
- 2040年(約30年後)の佐渡の人口：3万7千人(厚生労働省推計)
- イギリスでは産業革命(18世紀半ば：約250年前)から人口の都市集中現象
- ②なぜ人口の首都圏集中が起こるか
- 「経済成長の過程で、労働力や土地といった生産要素が第一次産業(農林水産業)から、第二次産業(建設、製造業)、そして、第三次産業(サービス業)へと移動する(ペティー・クラークの法則)
- ③なぜ、そうか：「利潤の大きさは、商業、工業、農業の順(ウィリアム・クラーク)
- ④どうするか：商業・工業を盛んにし、農業は園芸農業と六次産業化を進める

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—1

- (1) 佐渡の現状
 - ① 佐渡市の生産高：ちじむ佐渡市の経済規模（添付資料－1）
 - ② 佐渡の人口・世帯数、及び産業別就業者数（添付資料－2）
 - (a) 高齢者社会（若年層との逆転）
 - (b) 第一次産業（農林水産業）の就業者の激減
 - ③ 佐渡の観光客等の推移（上越新幹線の開通と共に）（添付資料－3）

- (2) 佐渡の課題

産業構成	平成22年	←	平成13年	増減	課題
第一次産業（農林水産）	4.8%		5.7%	▲0.9%	減少
第二次産業（建設・製造）	18.3%		24.6%	▲6.3%	減少
第三次産業（サービス）	76.9%		69.7%	+7.2%	

新 佐渡再生八策—「佐渡新時代の創生」

交通インフラの整備

①	空港	<p>(a) 佐渡空港の滑走路2,000メートル化のPI即時実施。 (PI: 住民説明/意見聴取/計画反映)</p> <p>(b) 佐渡—新潟線を首都圏に延伸 理由: 滑走路2,000メートル化には12~13年かかり、それを待っているのは、佐渡経済は大きく後退することが予想される。 対策: 滑走路の2,000メートル化を進めながら、現有890メートル滑走路を活用し、飛行機を首都圏に運航する。 効果: 佐渡を首都経済圏に組み込むことで、佐渡の産業経済の活性化を図る。</p> <p>(c) 工場団地の造成(空港周辺)→企業誘致 理由: 空港を、佐渡成長戦略の中核にすえ、産業経済の活性化を図る。 事例: 庄内空港: エレクトロニクス産業誘致</p>
---	----	---

産業構造の改善

④	企業誘致	<p>(a) 佐渡空港近辺に工場団地を造成 (b) 先端技術産業等の誘致 我が国の貿易高: 環日本海/アジア5割、アメリカ1割</p>
⑤	農業	<p>(a) 資源循環型有機肥料工場の建設 佐渡農産物のブランド化→安心・安全の食料供給基地化 (b) 園芸農業振興と六次産業化→佐渡農産物の輸出促進</p>
⑥	畜産 水産	<p>六次産業化と若者の雇用拡大→製品の販路拡大(輸出も) (a) 肉用牛の振興: と畜場/食肉加工センター/販売会社の設立 (b) 水産物加工場の建設</p>
⑦	観光	<p>(a) 関西/中部の観光誘客←来春の北陸新幹線の開業 小木-直江津航路に高速カーフェリー就航 (b) クルーズ船(豪華客船)の誘致促進 欧米に加え、アジア太平洋の新富裕層の増加 我が国の団塊の世代の年金生活入り (c) 佐渡金山の世界遺産登録の実現→外国人観光客 ジラス(世界農業遺産)、ジオパーク(大地の公園)と世界発信</p>



エネルギー政策(太陽光・風力・潮力・波力等)

②	港湾	<p>(a) 自然災害(佐渡北方沖地震津波)防災減災 (b) クルーズ船(豪華客船)誘致の為の港湾整備</p>
---	----	---

③	トンネル (大佐渡)	<p>(a) 生活道路: 外海府等/国仲の通勤が可能 (b) 産業道路: 各漁協から両津へ魚介類輸送 (c) 緊急道路: 救急車、消防車等の時間短縮 (d) 観光道路: 新たな観光ルートが開ける</p>
---	---------------	---

⑧	自然エネルギー	<p>(a) 目標: CO2を5割以上削減。名実共に【環境の島】実現 (b) 背景: CO2の増加→地球温暖化→異常気象 (イ) 火力発電から自然エネルギーへの転換 (c) 具体策: CO2排出量: 年間70万トン、内火力発電: 40万トン (ロ) 電気自動車の普及←佐渡は国のモデル地区 (d) 事例: 宮古島/自然エネルギーでCO2を73%削減 岩手県葛巻町/風車13本で電力需要175%発電 余った電気は東北電力に売電 (e) 波及効果: 新たな観光資源となることが期待される。</p>
---	---------	--

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—3

- (4) 具体策(各論)
- ① 交通インフラ政策
- (a) 佐渡空港の滑走路の2千メートル化と佐渡—羽田航空路の開設
- (イ) 佐渡の国際化への対応：ジラス(世界農業遺産)、ジオパーク(大地の公園)、佐渡金山の世界遺産登録
- (ロ) 農水産物等の貨物輸送で赤字を減らす(山形県庄内空港の実例)
- 過去20年間の庄内→羽田への航空貨物：約1万トン
- 内、農産物：63%(果物・野菜5,500トン、切り花830トン)
- 佐渡には、他にクロマグロ、寒ブリ等の水産物あり。
- (ハ) 空港近隣に工場団地を造成(先端技術産業の誘致→アジア等への輸出)

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—4

- (b) 大佐渡山系のトンネル建設→佐渡北部(外海府等)の国仲への利便性
- (イ) 生活道路: 通勤圏の拡大(冬でも国仲等で働ける)
- (ロ) 産業道路: 北部各漁港から両津への魚介類の輸送の利便性
- (ハ) 緊急道路: 救急車、消防車等の目的地への時間短縮
- (ニ) 観光道路: 新たな観光ルートの開発(中川秀平先生案)
- ②エネルギー政策
- (a) 理念: 環境の島→低炭素社会の実現→地球温暖化防止→異常気象対策
- (b) 政策: 化石燃料(火力発電)→自然エネルギー(太陽光/風力/潮力発電)
- (c) 考え方: 佐渡のCO₂排出量696千トン、内火力発電388千トン(56%)←電気自動車
- (d) 事例: 宮古島(CO₂を73%削減←三井物産)、岩手県葛巻町(風力)、粟島(潮力)
- (e) 効果: CO₂の削減→大気の浄化→異常気象対策の先進地域→新たな観光資源

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—5

- ③産業政策
- (a)先端技術産業の誘致
 - (イ)前提：佐渡空港滑走路2,000メートル化と佐渡—羽田航空路の開設→佐渡を首都経済圏に組込む(海の孤島からの脱却←庄内/陸の孤島)
 - 工場団地造成←庄内空港と工場団地(エレクトロニクス産業の誘致)
 - (ロ)企業誘致の方策：税制上の優遇措置(固定資産税等の減免措置)
 - (ハ)考え方：アジアの経済成長を佐渡に取込(我が国の年間貿易高：120兆円内、アジアが5割、自動車、パソコン、テレビ、携帯電話等の部品)

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—6

- ④農業の産業構造の改善
 - (a)背景：米の消費量の激減（昭和38年：1,341万トン→平成20年：869万トン）
 - 減反政策の廃止→飼料用米、加工用米等を奨励
 - (b)具体策
 - (イ)園芸農業（おけさ柿やリンゴ等の輸出等も視野に）→現金が入りやすく
 - (ロ)畜産の六次産業化
 - 繁殖牛中心→肉牛の肥育（佐渡高原牛（仮称）ブランドの構築）
 - 屠畜場（牛・豚等）→食肉加工センター→販売会社（雇用の確保）

第三部：どうする佐渡経済—「佐渡の未来」—7

- ⑤第三次産業(観光業)政策
- (a) 関西の観光客の誘致←来春、北陸新幹線開業/小木—直江津航路の高速
カーフェリーの就航
- (b) クルーズ大航海時代の到来とクルーズ船誘致
- (イ) クルーズ人口の増加: 2010年 ← 1990年
1,842万人(4.9倍) 377万人
- (ロ) 背景: 海外: 欧米の富裕層+アジア・太平洋地域の新富裕層(経済成長)
日本: 団塊の世代の年金生活
- (c) 対策: (イ) 港湾整備: 水深7.5メートル→12メートル(知事は検討を約束)
- (ロ) 佐渡の魅力の情報発信、船会社・代理店への情報発信(知事答弁)